



## ■ 開発造成域

B 地区内の北側部分には、研究棟等の利用を図るため湿地を横切る進入道路が建設され、台地上に建造物や駐車場等が整備されました。開発区域内にあっても、影響を回避・軽減するための様々な自然環境配慮が講じられています。

## Ⅲ. 調整池・砂川堀整備域

### ◆調整池整備前 2000年～'01年



●2000年9月18日  
湿地北東部



●2001年2月27日  
湿地北東部

B 地区北東部は、湿地の幅が広がる末端に位置し、早稲田大学の敷地となる1980年代までは、水田耕作が行われていました。

2002年までには、耕作放棄後のヨシ原を主とした湿地となっていました。

### ◆調整池整備工事段階 2003年



●2003年4月22日  
湿地北東端の調整池工事



●2003年4月10日  
調整池の護岸と砂川堀への流入水路



●2003年5月21日  
調整池工事中の湿地北東部

### ◆調整池湛水後 2004年～

B 地区の開発に伴い、湿地北東部は水が溜められる調整池として整備されました。その後、浅い水面を有する池沼の状態となり、カワセミやアオサギ・クサガメ・アブラハヤ等の水辺の生きものの生息地となっています。

調整池は、整備後10年以上が経過しても、止水域としての安定した環境条件が保たれています。



●2008年7月11日①  
整備後5年目・夏の調整池



●2009年4月24日②  
整備後6年目・春の調整池



●2010年5月13日③  
整備後7年目・春の調整池



●2011年5月20日④  
整備後8年目・春の調整池



●2012年5月11日⑤  
整備後9年目・春の調整池



●2013年1月18日⑥  
整備後10年目・冬の調整池



●2013年4月30日⑦  
整備後10年目・春の調整池



●2013年7月18日⑧  
整備後10年目・夏の調整池



●2014年7月25日⑨  
整備後11年目・夏の調整池



●2015年4月16日⑩  
整備後12年目・春の調整池



●2016年12月9日⑪  
整備後13年目・冬の調整池

◆砂川堀B地区最下流部の整備状況 2000年～



●2000年9月18日①  
整備前の砂川堀の細い流れ(秋)



●2001年2月27日②  
整備前の砂川堀の細い流れ(冬)



●2003年5月21日③  
整備中の砂川堀下流部



●2003年11月14日④  
整備完了時の砂川堀下流



●2009年4月24日⑤  
整備後6年目の砂川堀下流部



●2010年7月22日⑥  
整備後7年目の砂川堀下流部



●2011年8月30日⑦  
整備後8年目の砂川堀下流部



●2012年7月3日⑧  
整備後9年目の砂川堀下流部



●2013年10月14日⑨  
整備後10年目の砂川堀下流部





●2005年11月2日②  
整地され砂川堀への  
橋工事が開始された段階



●2005年8月19日  
工事着手段階の砂川堀隣接地



●2005年12月8日  
開発回避の協議により  
工事が止まっている状況



●2009年4月24日③  
開発が回避された後の状況



●2012年10月10日④  
開発が回避された後の状況



●2015年4月16日⑤  
開発が回避された後の状況



●2016年12月9日⑥  
開発が回避された後の状況



●2018年10月26日⑦  
開発が回避された後の状況

B地区入口部に位置し、湿地末端に開発に伴う治用水調整池として整備されましたが、湿地全域において、常時水のある開放水面として唯一の場所となっています。ヨシ原に囲まれた池の中には、モツゴ・メダカ・ドジョウ等が生息していますが、ミシシッピーアカミミガメ・アメリカザリガニ・ウシガエル等の外来種も多いのが課題です。



●2018年10月26日  
整備後15年目となる秋の調整池